

11/24

児童を表彰

佐久山小大田原市児童生徒表彰式



市では、子どもたちの優れた個性を見つけ出し、自信と誇りをもって成長してもらおうと、小学校4年生から中学校3年生の間に一度、すべての児童生徒を表彰しています。今年度は市内で571名の児童生徒が表彰されました。

佐久山小学校でも表彰式が行われ、校長先生から16名の児童に健康賞や努力賞などの表彰状と記念品が手渡されました。受賞された皆さま、おめでとうございます。皆さまのさらなる活躍を期待しています。

11/1

発掘体験で歴史を探求

上侍塚古墳発掘調査体験



栃木県の取り組みとして10月25日から湯津上地内にある国指定史跡「侍塚古墳」の発掘調査が始まりました。それに伴い、総合学習の一環として湯津上中学校の2年生が11月1日に、1年生が11月4日に「上侍塚古墳発掘調査体験」を行いました。

各々がスコップと箕を持ち発掘作業を進めると、ふきいし葺石らしき玉石が出土し、玉石を残しながら周りの土を丁寧に取り除く作業を粘り強く行っていました。

市史編さんだより vol.15

民俗部会調査速報⑤

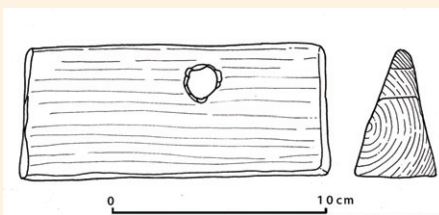
～コモアミのおもり錘～

問文化振興課 本4階 TEL(23)3135

今回紹介する資料は、大田原市歴史民俗資料館が所蔵する、コモ(菰)やタワラ(俵)を編む際に用いられた錘です。これらの錘に縦糸となる縄を絡めておき、コモアミすいダイと呼ばれる道具の棒の部分に横糸となるワラやカヤなどの材料を置き、それらを押しさえながら2個一対の錘を交互に往復させて編みました。

現在6個が残され、幅が約14～14.5cm、高さが6.1～7cm、最大の厚さが3.2～3.9cmで、平面が長方形で断面が下膨れの三角形状をしています。重量は92～121gで、平均は108.2gです。樹齢20年前後のスギ(杉)の幹を長さ14.5cmの丸太状に切り落とし、年輪の中央を目印として鉋で2つに割り、次に反対の面と底面を割り取って形を整え、周縁部は面取りされています。縄を通す穴は直径が約1.7cmの円形で、刃の幅が5mmほどの丸鑿のりを垂直方向に用いて開けられており、多少摩滅した痕がみられます。底面に樹皮が残されているものもあります。

北関東地方では、コモ編み用の錘は円筒形で牛乳瓶のように上部に括れがあるのが一般的です。それに対して、本資料のような形は北陸地方に顕著な型式で、近隣では那須烏山市に同様の例が見られます。烏山では、寄贈者の情報から、江戸時代末期に現在の富山県から移ってきたお宅で使用されていたことが分かっています。旧湯津上村内にも、同じような歴史的背景を有する家が存在することから、これらは那須地域では貴重な北陸系の民具といえます。(民俗部会 上野 修一)



錘の実測図(筆者作図)



錘の写真(大田原市歴史民俗資料館提供)